

# 図書館だより

# 77

西東京市図書館



## 西東京市デジタルアーカイブ

### 2020年3月1日公開スタート

『田無市史』『保谷市史』  
西東京市に関する古文書、絵図などを  
インターネットで見ることができます。

図書館のホームページのバナー・QRコード



<https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/1322915100>

### 内容をご紹介します!!

絵図 「田無 地租改正絵図 (西東京市指定文化財第18号)」・「保谷 大絵図」



高精細画像を自由に拡大縮小、現在の地図と重ねたり並べたりできます!

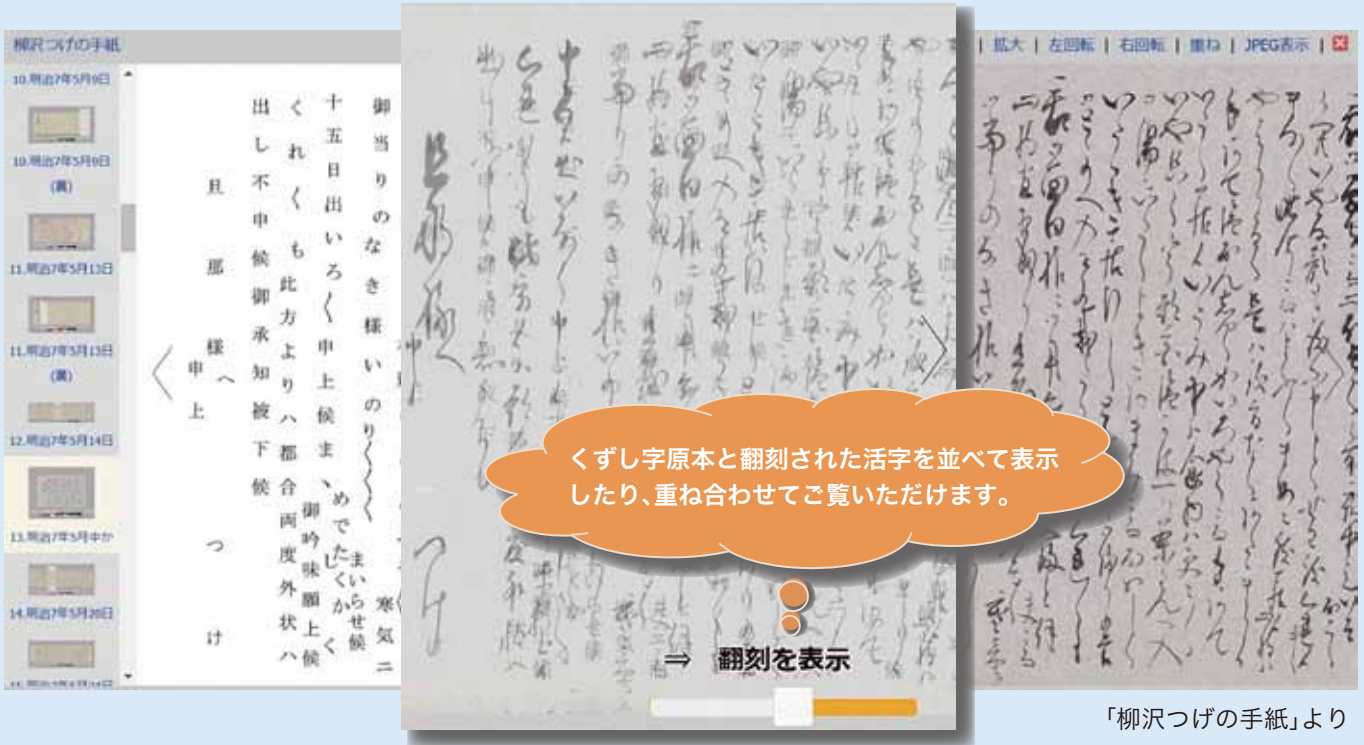
「地租改正図」より



★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら、谷戸図書館(Tel.042-421-4545)へお問合せを。

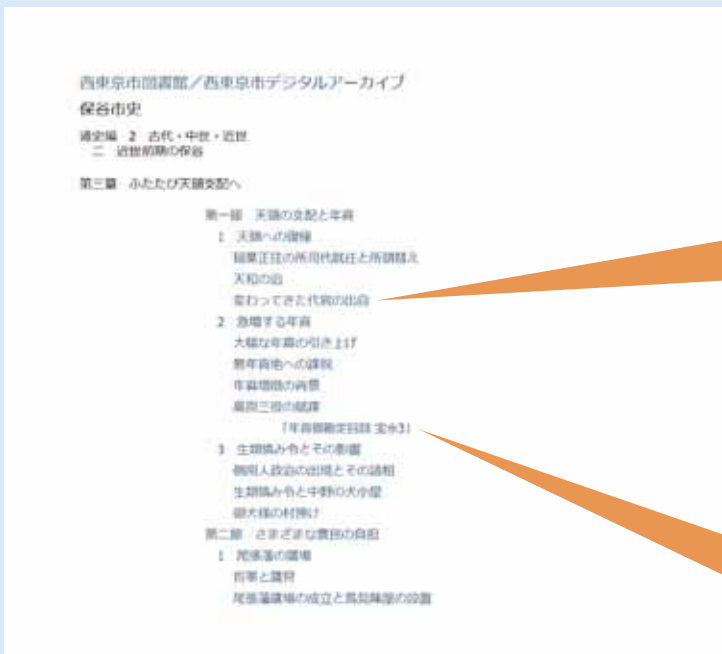
「田無村御検地帳（西東京市指定文化財第25号）」・「柳沢つげの手紙」



「柳沢つげの手紙」より

「田無市史 第3巻通史編・第4巻民俗編」・「保谷市史 通史編1～4」

目次の各節の見出しから該当ページが表示されます。



「保谷市史」より



『保谷市史 史料編』に掲載されている「蓮見家文書（西東京市指定文化財第48号）」の一部を読むことができます。

公益財団法人図書館振興財団の平成31年度振興助成事業として助成を受けました

# にんにん西東京

## 第26回 「西東京市の愛称道路」その2



西東京市図書館キャラクター  
西都右京くん

前号に続いて、西東京市の歴史を物語る愛称道路を取り上げます。今回は、昔の人がたどったであろうその道の先も紹介します。

### ① 深大寺街道

愛称道路「深大寺街道」は、青梅街道の柳沢5丁目と南町1丁目境から南下し、石神井川を越え、文化通りと柳沢団地通りが繋がる交差点でひろく地藏尊に出会います。馬頭観音文字塔を過ぎ、都立田無工業高等学校南の向台中央通りで馬頭観音に出会い、武蔵野大学を過ぎて五日市街道へ繋がる道です。この道は、旧来より深大寺への参詣のため、布田五宿（甲州街道の国領宿、下布田宿、上布田宿、下石原宿、上石原宿）へ向かう深大寺道と重なります。

浮岳山昌楽院深大寺は、だるま市や蕎麦でも知られています。江戸時代から慈恵大師（元三大師）信仰が盛んになりました。白鳳時代に作られた、腰かけている姿が珍しい国宝釈迦如来像が拝観でき、春には秘仏の元三大師特別開帳も予定されています。

### ② 早大グラウンド通り

西武新宿線東伏見駅南口から早稲田大学東伏見キャンパス、東伏見総合グラウンドを縦断し、青梅街道の東伏見坂上交差点までの通りです。

早稲田大学東伏見総合グラウンドは、大正14年（1925）に開設され、昭和2年（1927）西武鉄道村山線（現西武新宿線）の開通が契機となって徐々に早大各体育部によって練習場として使用されるようになります。駅前にはダイドードリンコアイスアリーナがあり、アイススポーツの場として活況を呈しています。

早大グラウンドの南、石神井川沿いの台地上には、縄文時代中期大集落跡の下野谷遺跡が広がります。昭和25年（1950）には、坂上遺跡という名称で文献上に紹介されています。

下野谷遺跡の総面積は13万4千㎡で、発掘

調査により、竪穴住居跡、縄文時代中期を代表する土器などが出土しています。平成18年（2006）、遺跡を地下に保存した「下野谷遺跡公園」が開園され、更に平成27年（2015）には、規模、内容ともに豊かな縄文時代の集落遺跡と評価され、一部が国の史跡に指定されました。

西東京市ゆかりの詩人、茨木のり子さんは、昭和33年（1958）、この東伏見の地に新居を建てられ、亡くなる平成18年（2006）まで、『自分の感受性くらい』や『倚りかからず』など多くの作品を生み出されました。





# イベント報告

令和元年11月16日(土)

下保谷四丁目特別緑地保全地区(旧高橋家屋敷林)

## 「タイムスリップおはなし会」

～「旧高橋家屋敷林」の中で、昔話とドングリ遊びを楽しもう!～

旧高橋家屋敷林は、保谷の駅近くにありながら、古き日本の景観と豊かなみどりを有する屋敷林です。当日は、昔ながらの民家の雰囲気の中、昔話の絵本や紙芝居を読み、素話を楽しみました。また、屋敷林でひろったドングリを使って、参加者みんなでリースを作りました。

後半は、屋敷林の中を散策し、最後は「あぶくたったにえたった」という昔遊びを楽しみ、ちょっとしたタイムスリップ気分を味わいました。



令和元年11月16日(土) 田無公民館 視聴覚室

## 「成年後見と家族信託」

成年後見、家族信託とはどのような制度なのか、法テラス多摩法律事務所の弁護士である加藤梓氏と森脇崇氏を講師にお招きして、それぞれの制度の特徴や注意点について、事例を紹介しながらお話しいただきました。参加された方からは、「これから自分のすることについての足がかりになった」「後見、信託の違いがはっきりわかってよかった」「相談窓口がわかり助かった」との声が寄せられました。



令和元年12月15日(日) 田無公民館

## 「知って、そなえて、病気のこと」

望月眞弓先生(NPO 法人キャンサーリボンズ理事)をお招きし、自分や家族が病気になったときに必要な医療の知識や情報を集める方法、活かし方等をお話しいただきました。

私たちが利用しやすい一般向けの情報源(信頼できるホームページ等)だけでなく、医療の専門家が利用している情報源などを知ることができ、参加された方から「プロの多角的な見方も大変勉強になりました」とのお声もいただきました。

中央図書館では、「健康・医療情報コーナー」を設置し、関連の図書・雑誌・リーフレット等を集めています。講演では、たくさんの情報のなかから自分にとって有効な情報を取捨選択して、病気治療の意思決定につなげていくことが大切であるというお話がありました。図書館におきましても、みなさまのお役に立てる資料を提供していく工夫をしていきますので、どうぞご活用下さい。



# 令和元年度図書館協議会報告

## 年6回(開催月5、7、9、11、1、3月)の主な議題

平成30年度図書館事業評価について

諮問:西東京市図書館の開館時間の拡大について

今年度より2年間(令和元年5月1日から令和3年4月30日)の新しい任期が始まりました。

平成30年度図書館事業評価の2次評価をお願いしました。実施事業をもとに、全17項目について評価とともに様々な意見と指摘を受けました。

また、図書館長より「西東京市図書館の開館時間の拡大について」を諮問し、令和2年度に答申をいただく予定で検討を進めているところです。



(荒川区立ゆいの森あらかわへの視察での一枚)

## 平成30年度図書館事業評価の2次評価でいただいた主なコメント(抜粋)

全文は図書館HPでご覧いただけます。

### ヤングアダルトサービス



関心の高い分野を把握し、ノンフィクション資料の充実を図ることに着目してコレクション構築を進めた取組みは評価できます。若い世代のニーズに応えていくことは図書館の発展にもつながるはずですが、この世代はまずは図書館に来てもらうことが大切ですので、「行きたい」と思える図書館のニーズを把握するために、直接、意見を聞けるような場の設定などがあるとなおよいのではないかと感じます。

### 絵本と子育て事業



絵本と子育て事業は絵本の配布率も高く評価することができますが、3歳児フォロー事業は、健診会場と事業実施会場が違うため参加率が低いようです。よい取組みであると思いますのでより一層の参加率の向上に努めてください。

### デージー図書作製



デージー図書の作製は利用者の要望、音訳者の作業能力など外的要因が大きいと思います。音訳者の確保、育成に時間と手間が掛かりますが、今後も研修体制の継続・充実により音訳者の養成に努めてください。

### 多文化サービス



多文化サービスとしては、日本人参加者が多言語多文化に触れ、「楽しかった」と感想を持つことは多文化共生の地域づくりに貢献するので、実施事業は大いに評価できます。また、日本語学習中の外国人参加者が講師として母語や得意な言語を用い、多くの人々の前で絵本を読むことは、彼らの社会参加でもあり、多文化共生事業として評価します。しかし、地域に住む日本語を母語としない方達の参加が少なく、今後はより参加者を多くするように企画や広報活動を積極的に行ってください。



# 小さなアーティスト



## 私の大切な風景 中原小学校6年

子どもの頃、新しい物語と未知の世界につづく扉を求めて図書館に通った。思春期には「人生をどう生きるか」という大きな謎に会い、哲学の本など読むふりをしながら憧れの先輩が来るのを密かに待つという淡い恋心にも出会った。恋は片思いで終わり、人生の謎は解けるどころか深まるばかりで就職、結婚、出産と人生はとても忙しい。けれども図書館に行けばいつでも素の自分に出会うことができた。どの本を手にとるかは自分の心に問いかけることでしか選べないからだ。

子育ての日々は大変だったが今にして思えば人生の中のほんのひとときであった。思い出すだけで心があたたかい。今や大人になった二人の子どもが小学校に上がる前のことだ。一日の終わりに布団に入る。私が真ん中で左右に娘と息子。時に夫も加わって、頭を寄せ合って一冊の絵本を読む時間はとても楽しかった。「ぐりとぐら」「とんとんとめてくださいな」「はじめてのおつかい」など絵本は図書館から借りてきた。「赤いくつ」の少女が木こりに足を切りおとしてもらうところで悲鳴を

上げてくっつき合った日々が懐かしい。子どもたちが小学校に上がると「海賊ポケット」シリーズを一人一ページずつ音読するようになり、そのうちに登場人物になりきって読むというおもしろいことになっていった。

やがて子どもたちには反抗期、夫婦にはよくあるすれ違いなどもやってくる。忙しい日々さらなる無理難題もやってきて、人生は思った

以上に奥深く思い通りにいかないことばかりと知る。幸せな思い出に励まされ、背中を押されることもあった。いつか子育て講座で聞いた話だが「大人になって小さい頃を思い出した時、何となくあったかいもの

に包まれていたなあと思えることが大事」という。二人はあのぬくもりを憶えているだろうか。

人生の謎は未だ解けずにいるけれど、図書館で未知の世界に出会ったら、見えないもうひとつの扉を開けて行動してみるのがいいことは知った。借りてきた絵本がぬくもりと共に記憶に刻まれていったように。そして私はこれからも図書館の扉を開ける。と言っても、扉はもちろん自動ドアなのだけれども。

利用者エッセイ  
わたしと  
図書館  
ペンネーム ひよこ